

明治期日欧言語交流史の一研究

—『英語節用集』所収二字漢字表記語の
『漢語英訳辞典』における収載状況をめぐって—

坂 本 浩 一

はじめに

明治期のいわゆる第二期英学書刊行ブームの折に編集され明治17年(1884)に出版刊行された『英語節用集』は、当代の主要辞書に比べて規模も小さく、価値の乏しい周辺資料の一として扱われてきた感が強い⁽¹⁾。しかし、一方で『哲学字彙』『和英語林集成』等に収載された語彙の性格を考察する有益な情報を与えてくれる資料であることが、これまでの調査から次第に判明してきた⁽²⁾。

本稿においては、『英語節用集』所載の二字漢字表記語がガビンス編『漢語英訳辞典』にどのようにに収載されているか、あるいはされていないのか、その実態報告を行うとともに、調査データである語彙リストを利用して『哲学字彙』や『和英語林集成』等における当代訳語の展開過程の一端を窺ってみたい⁽³⁾。

1 『英語節用集』所収二字漢字表記語と『漢語英訳辞典』との対照調査

『英語節用集』の二字漢字表記語⁴⁷⁷について、『漢語英訳辞典』の漢字見出し項目に見られるかどうかを調査した。

以下、『英語節用集』の各部に分けてその結果を語彙リストとして掲出し、検討して行きたい。

〔○〕型は『漢語英訳辞典』に当該漢字表記語項目が存するもので、〔一〕型は存しないものである。また、リスト中、『see～』とあるのは、『漢語英訳辞典』において、例えば「Buk-kiō 一教, see Butsu-dō 一道」のように示されている場合を示す。また、「／」の後の英語語形は『英語節用集』の当該項目の英語見出しであるが、「＊」符号を付したものはスベル等に関する編集ミスと見られる

原態の綴りであり、矢印の前に訂正綴り形を稿者が付した。リスト掲出順は『英語節用集』内の掲出順とし、漢字表記語が重複する項目についても、原態を示すためそのまま挙げることにする。漢字字体は現行のものに改めた場合がある。

1-1 「宗教及哲学論派名称」部所収のもの

『英語節用集』『宗教及哲学論派名称』部は全135項目で構成されるが、そのうち二字漢字表記語は3項目のみである。三字以上の漢字表記語が多くなっているのは、当該部には「論」「主義」の接尾辞を含むものが多いという事情による。『英語節用集』がかなり利用したと見られる『哲学字彙』内においても、こうした接尾辞を伴う訳語が頻出する⁽⁴⁾。『英語節用集』内におけるこれらの翻訳に伴う接辞の調査については、別の機会にまとめて報告したい。

さて、『漢語英訳辞典』に項目が存するものは、次の2項であった。

〔O〕型：仏教《see 仏道》/Buddhism 神道/Shintoism

「仏教」項については、「仏道」項を主項目とする扱いである。ヘボン『和英語林集成』英和の部においても「Buddhism」の訳語は、初版から第三版まで通じて「仏法、仏道」を挙げていて、「仏教」は挙げられない。このあたり、日本人読者を対象とした『英語節用集』との違いが窺えて興味深い。

また、「神道」項については、『漢語英訳辞典』では「Shin-dō 一遣 (Usually read Shin-tō)」といった音形注記が付されていて、むしろ「シンドー」語形が主、「シントー」語形が従であるようにも受け取れる記述となっている。

ちなみに、『漢語英訳辞典』の編者ガビンスが序文で参考にしたと述べている高橋五郎の“いろは辞典”⁽⁵⁾には、「しんたう」の清音語形で立項がなされる。『英語節用集』の日本語音形は明示的ではないが、外国人日本語学習者を対象とする『漢語英訳辞典』のこの記述については、日本漢字音学習といった観点から、さらに他の周辺資料等も合わせて考えてみるのが大切であろう。いずれにしても、日本人を読者とした啓蒙辞書『英語節用集』の記述ふりと『漢語英訳辞典』のそれとの若干の異なりは、当代の対訳辞書資料についての慎重な扱いの必要性を示唆するものである。

『漢語英訳辞典』に立項されないものは次の1項であった。

〔一〕型：秘教/Esotericism

なお、『和英語林集成』英和の部では、ようやく第三版になって「Esoteric」項に「-dodotorins」が挙げられ、「密教」の訳語が付されるのみである。

1-2 「學術名称」部所収のもの

次に「學術名称」部であるが、全61項目中、二字漢字表記語は8項であり、その中で『漢語英訳辞典』に立項されたものは次の6項であった。

〔○〕型：科学/Science 哲学/Philosophy ← Phyllosofhy* 数学
《see 数理》/Mathematics 語学/Philology ← Phylology* 文学/
Literature 化学/Chemistry ← Chemistry*

「数学」については「数理」参照の指示があり、訳語として主ではない扱いに見えるが、「数理」の訳語には「arithmetic」のみが掲出されている。『漢語英訳辞典』には「算術」項も存在するが、訳語はやはり「arithmetic」のみである。『和英語林集成』英和の部では、「Mathematics」には初版で「算学、算」、第二版・第三版で「算学、算術」が挙げられ、「数学」「数理」とも見られないが、「Arithmetic」項では初版・第二版で「算術」、第三版で「算術、数学」となっていて、「数学」が掲出されている。英語側、日本語側の各々で、対訳関係が複雑に複数語間で絡み合っているのである。

『漢語英訳辞典』に見られなかったものは、次の2項であった。

〔―〕型：神学/Theology 詩学/Poesy

『和英語林集成』英和の部では、「Theology」に対して初版・第二版で「神学、シントー」、第三版で「神学」のみとなっている。「Shintoism」は『和英語林集成』では立項されていないので明確ではないが、先述の「神道（シントー）」が初版・第二版編集時に日本固有の宗教名称として捉えられていたものかどうかが興味深いところであり、『漢語英訳辞典』の「シントー」語形に関しても、考察の材料を提供しているものと見たい。

1-3 「宗教家応用語」部所収のもの

当該部全284項目中、二字漢字表記語は250項と構成比率が高くなっている。その中、『漢語英訳辞典』に項目が存するものは、次の193項である。

〔○〕型：宗教/Religion 天堂/Heaven 地獄/Hell 偶像/Idol
恭敬/Worship 良心/Moral sense ← Moralsence* 私慾/Selfishness
真実《see 誠実》/Real 誘惑/Temptation 克己/Self-denial
靈魂/Soul 現世/Present-world 木像/Wooden-idol 五官《see
便辟》/Five-senses 蘇生/Revive 感動/Impression 驕慢《see 自
慢》/Pride 信仰/Devotion 原因《see 原由》/Cause 結果/Effect
覚他/Tolead consciousness of otherselves 宗徒/Apostle 道德/
Morality 觀念/Idea 虚無/Void 悲痛《see 悲歎》/Lamentation
憂愁《see 愁歎》/Sorrow 真理/Truth 術数/Policy 氣力/Vig-

our 方便/Mean 禁止《see 禁制》/Confinement 性質/Character 偏執《see 偏固》/Bias 施物/Almomy 信用/Belief 集会《see 会集》/Assemble 異說/Dissent 除地/Allodium 金言/Aphorism 讚美《see 讚賞》/Approbation 智慧/Wisdom 議論/Debate 不朽/Perpetuity 寓言/Phenakism 憐恐/《see 憐恤》Pity 題目/Thesis 教会/Congregation 熱心/Zeal 名辭《see 名言》/Term 昌盛《see 盛昌》/Prosperity ← Prosperity* 勳勞《see 勳功》/Merit 名目/Name 心痛/Pang 不幸/Unfortunate 利用/Utility 奇遇/Accident 誠信/Faith 自殺/Suicide 驚愕/Wonder 瑞相/Lucky-omen ← Lucky-omen* 樂譜/Music-book 門派/System ← Sistem* 淨土/Purgatory 空虛/Vacuum 真如/Reality 上天/Heaven 洗礼/Baptism 清淨/Purity 解釋/Explanation 神聖/Holiness 絕對/Absolute 發明/Invention 改正/Meliority 正直/Justness ← Jastness* 怠惰/Neglectedness 注意/Attention 奇談/Paradox ← Paradox* 愚痴《see 愚鈍》/Obtuseness 寺領/Parish 故鄉/Native-place 說法/Preaching 客舍《see 客亭》/Public-house 刑罪/Punishment 魔法/Incantation 練熟《see 熟練》/Masterliness 天命/Providance 高言/Rant 願望/Requisition 自負《see 自慢》/Self-confidence 講談《see 講釈》/Lecture ← Pecture* 差別/Difference 平等/Equality ← Eequality* 帰服/Obedience 狡猾/Cunning 獨立/Independence 改宗/Convert 後悔/Contriteness 便利/Convenient 會議/Convention 永続/Continued 爭論/Contention 一致/Consort 嫉妬/Jealousy 落涙/Shed-tear 守護/Conservation 裁判/Judicature 侵入/Invasion ← Invasion* 改革/Revolution 一般/General 衰微/Decline 和睦/Concord 社中/Company 音樂/Music 編輯《see 編纂》/Compilation 行狀/Comportment 內部/Interior 外部《see 外面》/Exterior 野蠻/Barbaric 遍歷/Extravagated 生活/Life 骸骨/Skeleton 名譽/Honor 關係/Consequence 戒心《see 一慎》/Caution 單純《see 純粹》/Similar 旅行/Travel 臆說/Hypothetical 比較/Compare 妄想/Fanciful 石碑/Monument ← Manumend* 遺物《see 遺產》/Relics 誘引/Excitement 悅服/Obey 習慣《see 慣習》/Custom 攻擊/Attack 餓死/Starve ← Staved* 堪忍/Abstain 精進/Religious-abstinence ← Religious-abstinence* 抵

抗/Resist 驕慢《see 自慢》/Self-conceit 自滅/Self-destruction
 独学/Self-educated 拝礼/Supplication ← Spplication* 戦争/
 Warfare 文明/Civilization 才智/Intelligence 有形/Physical
 無形/Spiritual 法則/Method 公平/Conscientiously 道理/
 Reason 一揆/Insurrection 世界/World 支配/Domination
 混沌/Chaos 死骸《see 尸骸》/Corse ← Corse* 名聲《see 名聞》/
 Reputation 葬礼/Interment 慣習/Habit 風俗/Manner 教
 化/Humanization 全能/Almight y ← Almight* 天使《see 勅使》/
 Angel 創造《see 創製》/Creation 情緒/Emotion 正教/Ortho-
 dox 天賦/Implanted 降生《see 降誕》/Incarnation 有情/Sen-
 tient 非情/Insensible 社会/Society 正義/Justice 慈悲/
 Grace 惡念/Evil-thought 惡業/Evil-deed 感覺/Sensation
 感応/Feeling 記憶/Memory 究竟/Ulitimate ← Ultimote* 慈
 悲/Grace 民情《see 民心》/Nationality 理論/Declamation 結
 合/Calescence 公会/Parliament ← Partiament* 基礎/Founded
 教育/Education 愛情/Love 自由/Liberty 意思《see 意見》/
 Will 愛情/Inclination 悔改/Repentance 異教/Gentilism

上記の中で例えば「虚無」項については、『漢語英訳辞典』の項目記述には「used only in the term kyo-mu-to, the Nihilist Party」とのみあって、興味深い。『和英語林集成』英和の部では「Void」の初版記述には「カラ、クー、アク、空虚、ムナシイ、無駄、ナイ、クーグモル」とあって、「空虚」あたりが『英語節用集』の記述に近いが、第二版・第三版では形容詞表示がなされる項目と動詞表示項目とに分けられ、前者では「カラ、クー、アク、ムナシイ、無駄、ナイ」となっており、「空虚」が削除されている。英語「Void」の翻訳史といった観点に立てば、『英語節用集』、『漢語英訳辞典』各々のあり方と合わせて、明治初期の実態を観察する上で貴重な情報が得られるのである。ちなみに、『和英語林集成』英和の部では第三版になって初めて「Nihilism」項が立てられて「虚無論」の訳が与えられているが、「Nihilist」の項目は存しない。一方、やはり和英の部では第三版になって「虚無党」が立項され、「Nihilist」の訳語が付されており、『漢語英訳辞典』の記述の背景が窺い知れるようである。

また「誘引」項目について言えば、字順転倒語形である「引誘」を参照との指示があり、主項目扱いの「引誘」には「(ヲ)スル」の他動詞用法を示す記述が存する。当代の二字漢字表記語には、現行の語形に対して字順転倒語形が存したり併用されたりといった現象が目立つが、『漢語英訳辞典』のこうした記述は貴重な情報をもたらしてくれることになる。

次に、『漢語英訳辞典』に項目が存しない二字漢字表記語項を挙げれば、以下の57項である。

〔一〕型：楽園/Paradise ← Paradise* 虚忘/Absurd 怒恚/Rage
涅槃/Nirvana ← Nivana* 画像/Portrait 預知/Prescience ←
Precience* 趣味/Taste 邪執/Prejudice 謬信/Superstition
崇奉/Adulation ← Adration* 常住/Unchangeable 無常/Change-
able 自觉/Self-consciousness 偽計/Deceite 自利/Self-
benefit 利他/Altruism 信心/Spirituality 布弘/Propagation
寺法/Canon-law ← Canon-Law* 信約/Credit 有体/Corporeal
固執/Bigotry 執意/Volition 無碍/Unconditional ← Uncon-
ditioneal* 永存/Persistence 輪廻/Transmission 不正/
Wrong 成効/Result 敬謹/Respectful 瑞夢/Lucky-dream ←
Lucky-dream* 天真/Natural 定道/Predestination 預言/
Prophecy 強欲/Lust 後住(寺ノ)/Provior 廢滅/Ruin 供
物/Sacrifice 演説/Speech 心意/Mind 牢獄/Jail 進化/
Evolution 出版/Edition 不能/Impossible 運命/Destiny
推理/Inference 原素/Elements 激因/Stimulus 土葬/Cata-
combs 略説/Summary 神經/Nerve 智覚/Feeling 殖民/
Settled 虚霊/Spiritual existence 習成/Factitious 元始/
Beginning 理想/Ideal 拝像/Idolatry

上記の中、「趣味」は現行語形の字順転倒語形であるが、『漢語英訳辞典』には「趣」部にも「趣意」「趣向」「趣旨(see 趣意)」の3項目が立てられるだけであつて、「趣味」もまた存しない。『和英語林集成』初版～第三版においても、英和の部「Taste」項の訳語中に「趣味」は見られず、また和英の部には「味趣」「趣味」ともに立てられることはない。このあたり、『英語節用集』の独自性が窺えらるとともに、「趣味」の語誌に関する情報としても大変興味深い。

1-4 「人品及官位」部所収のもの

当該部全160項目中、二字漢字表記語は65項であり、『漢語英訳辞典』に項目があるものは、以下の46項である。

〔〇〕型：隠者《see 隠士》/Eremite 僧正(邪教ノ)/Bishop 朋党/
Party 信者《see 信徒》/Believer 化身/Avatar 賢者《see 賢人》/
Wise-man 天狗/Cherubim 紳士/Gentle-man 農民/Peasant
商人/Merchant 平民/Laity 貴族/Noble-man 皇族/Royal-
family 国民/Nation 兵卒/Soldier 伶人/Musician 奴隸/

Slave 学者/Learned-man 碩儒/Polymathy 囚人/Prisoner
 巡查/Policeman 官員《see 官吏》/Officer 長官/President 老
 人/Oldman 出家/Monk 眷属《see 家族》/Kin 子孫/Offspring
 学士/Scientist 聖人/Holy-man 元祖/Originator 医者/Physi-
 cian 法師/Clerk 両親/Parent 兄弟/Brother 姉妹/Sister
 叔父/Uncle 叔母/Aunt 女王《see 女帝》/Queen ← Queen* 宰
 相/Prime Minister ← Prim Minister* 門徒/Member 盲目/Blind
 医師《see 医者》/Physician 博士/Professor 神仙/Genii 主宰/
 Ruler 惡漢/Wretch

『漢語英訳辞典』の「主宰」項には、「The governor or administrative officials of a district, province, or clan; (rarely now used)」との記述があり、「領地・地方・藩の領主」といった名詞用法のみの記述がなされ、さらに「現在では滅多に使用されない」とされている。サ変動詞用法に比較的豊富な情報を与える該資料においてその用法に言及がないのは、現行において「会を主宰する」といった用法が主立った印象を与える語であることを勘案すると、当代における「主宰」の品詞性が名詞用法に偏していることに注目すべきであろう。『和英語林集成』和英の部においても、第三版で初めて立項される「主宰」項が同義語に「ツカサ、オサ」を挙げるように、『漢語英訳辞典』同様の記述であって、サ変動詞用法を窺わせる記述は見られないのである。

『漢語英訳辞典』に立項されていないのは、以下の19項目である。

〔一〕型：仏弟/Buddhist 外道/Heresy 仏陀/Buddha 邪蘇/
 Christ 演者/Speech-man 巫女/Witch 惡魔/Satan 幽霊/
 Sprite 詩家/Poet 婦女/Woman 弁者/Eloquent 諸生/
 Scholar 齒医/Dentist 教官/Teacher 逸士/Hermit 牧師/
 Pedagogue ← Pedagogue* 坊主/Monastic 蕃民/Savageness
 審吏/Justice of the peace

『英語節用集』が「演者」を立てるのは、緒言の内容や書名に冠せられた「弁士必携」の角書からも事情が察せられる。『漢語英訳辞典』には、「演士」「弁士」は立てられるが、「演者」はない。『和英語林集成』でも英和の部「Speech」項は立てられても「演説」が見られるものの「演者」はやはり存しないし、和英の部にもやはり「演説」が存するのみである。『日本国語大辞典』第二版が随外の『独逸日記』明治19年(1886)を初出用例に挙げるところを見ても、『英語節用集』の「演者」立項は注目に値するものと言えよう。

1-5 「政治及法制」部所収のもの

当該部全123項目中に二字漢字表記語は55項あり、『漢語英訳辞典』に収載されるものは次の41項である。

○型：国家/State 政権/Political-right 権利/Right 法制
 《see 法度》/Law 民法/Civil-law 刑法/Criminal-law 民政/
 Democracy 軍律/Martial-law 政府/Government 租税/Tax-
 ation 革命/Revolution 帝国/Empire 市区/Municipality
 国政/Polity 憲法/Constitution 行政/Executive-power 立法/
 Legislative-power 管轄/Govern 虐政/Cruel-Government
 内閣/Cabinet 参議/Privy councillor 布達《see 布告》/Proclama-
 tion 広告/Notification 指令/Order 法律/Law 建白/
 Memorial 請願/Petition 県令/Governor of province ← Gover-
 nor of provinc* 除籍/Denationalization 家政/Economics 国
 法/Municipal-law 法式/Modus 誤用/Misuse 商議/Negotia-
 tion 命令/Order 政法《see 政令》/Political-law 平安《see 平
 穩》/Peace 王国/Kingdom 民情《see 民心》/Nationality 政法
 《see 政令》/Policy 規則/Regulation

「家政」は『日本国語大辞典』第二版が明治2年(1869)『日誌字解』を初出とするように、当代の所謂新漢語であるが、『Economics』の訳語に立てられるのは『英語節用集』独自ということではなく、『哲学字彙』初版・第二版[Economics]項には、「家政」「理財学」が当てられている。『哲学字彙』第三版ではそれに加えて現行訳語形の「経済学」が見られる。「経済学」自体は明治6年(1873)『附音挿図英和字彙』⁽⁹⁾等には既に存するので、やはり『英語節用集』が『哲学字彙』の強い影響下にあることを示すものと言える。なお、『和英語林集成』英和の部初版～第三版には「Economics」自体が立項されていない。

こうした各主要辞書間の動向を窺うための補助として、『英語節用集』といった周遍的な資料の情報をつき合わせて行く作業も今後さらに必要である。次に、『漢語英訳辞典』に不立項のものは、次の14項である。

〔一〕型：天権/Natural-right 德権/Moral-right 法権/Legal-right
 君政/Monarchy 動議/Motion 純権/Absolute-right 大輔/
 Vice-minister 少輔/Assistant vice minister 知府/Governor of
 department 機制/Mechanism 用式/Modus-ponens 魔式/
 Modus-tollen 性法/Law of nature 体制/Organization ← Organi-
 zation*

「Monarchy」に「君政」を対応させるのは『哲学字彙』の影響であろうが、

『和英語林集成』英和の部の訳語では第二版が「グンケン」のみであるのに対し、第三版で「クンセイ」を追加している。『附音挿図英和字彙』においても、初版になかった「君政」が明治15年(1882)の第二版で追加されているのであって、結局この時期、諸主要辞書も『英語節用集』も訳語「君政」の採用で一一致する流れにあったと言える。

1-6 「政治家応用語」部所収のもの

該当部の全93項目中、二字漢字表記語は72項。うち『漢語英訳辞典』に立項されたものは、次の51項である。

〔○〕型：徒党/Party 同盟/Alliance 補任/Appointment 律令
 《see 法則》/Canon 約定/Compact 要路/Compendium 連絡/
 Connection 黙許/Tacit-consent 抑制《see 抑圧》/Control 節
 操/Continnence 勢力《see 権威》/Energy 独断/Dogma 腕力/
 Physical-force 虚誉《see 虚声》/Vain-glory 結局/Goal 無罪
 《see 無辜》/Innocence 教唆/Instigation 義気/Patriotism 反
 逆/Rebellion 交誼/Friendship 償還《see 償却》/Payment 堅
 忍/Perseverance 全権/Absolute-power 口実/Pretension 主
 義/Principle 特許/Privilege ← Privilage* 問題/Problem 未
 決《see 未定》/Problematic 遁辞/Quibble 理由/Rationale ←
 Rational* 贅言/Redundancy 駁撃/Refutation 条例/Regula-
 tion 中裁/Reconciliation 会員/Member 隠遁/Secusion
 撰択/Selection 廉節/Temperance 定論/Theorem 与論/
 Public-opinion 許容《see 許諾》/Toleration 弁理/Transaction
 結合/Combination 完全/Complete 允許《see 允可》/Consent
 公会/Convention 正義/Justice 服従《see 伏従》/Homage 平安
 《see 平穩》/Peace 規則/Rule 理論/Theory

「特許」は『哲学字彙』初版、『附音挿図英和字彙』初版にも存するなど明治のかなり初期から対訳辞書に収載されるものである。しかし、『和英語林集成』英和の部では「Privilege」が第二版で初立項された際には「キスルコト、モチマエ、スジメ」と訳語に漢語は挙げられず、ようやく第三版になって「特権」「特許」「權利」が追加されるということで、収載が遅れる。これは『哲学字彙』に「特許(法)」とあるように、法律用語という學術専門用語の色彩を帯びていたことが大きな理由なのであろう。それを『英語節用集』が収載しているのは、該資料が小なりとはいえ専門用語辞典の性格を付与されていることを物語っている。『和英語林集成』はヘボンの序文(第三版)にあるよう、増補時の新漢

語収載に当たっては、「popular and general use」に適うものという制限を自らに課しているのであるが、それを乗り超えて「特許」が採用されているということは、この語がすでに明治十年代末期にはかなり一般への普及が進行したものと編者が判断するに足るだけの背景が存したということなのであるうか。『英語節用集』が一方で啓蒙的辞書として「寒村僻邑ニ在リテ書籍師友ニ乏シキ人」をも読者とする旨「緒言」で唱えていることと併せて、なおも当代の各訳語の成長過程に関しては興味が尽きないところである。

『漢語英訳辞典』に立項されなかったものは、次の21項となっている。

〔一〕型：内政/Administration 反情/Antipathy 明許/Express-consent 逆説/Paradox 妄論/Paralogism 公準/Postulate 預察/Presumption 大本/Fundamental-principle 種属/Race 非議/Reproach 自制/Self-control 自護/Self-defence 自責/Self-reproach 自決/Self-determination 詭弁/Sophism 競争/Struggle 同情/Sympathy 通理/Universal-truth 逆理/Unreasonable ← Anreasonable* 漸化/Variation 発動/Act

1-7 「堂屋及処名」部所収のもの

当該部所収全40項目中二字漢字表記語は14語であり、『漢語英訳辞典』に立項されたものは次の10項である。

〔〇〕型：鐘樓《see 鐘堂》/Belfry 本寺/Mother-church 首府/Capital 市街/Street 旅館《see 旅亭》/Hotel 藥舖/Apothecary-shop 宮殿/Palace 関税/Custom 銀行/Bank 病院/Hospital

また、『漢語英訳辞典』に立項されていないものは次の4項である。

〔一〕型：仏堂/Buddher 貧院/Alms 屋宇/Edifice 墓地/Church-yard

1-8 「年代及歴史」部所収のもの

当該部全18項目中に二字漢字表記語は10項あり、その全てが下記の通りに『漢語英訳辞典』において立項がなされていた。

〔〇〕型：年代《see 時代》/Age 歴史/History 闘争/Struggle ← Struggle* 服従《see 伏従》/Subjection 建国/Nationalization ← Nationalization* 帰化/Naturalization ← Naturalization* 事実/Fact 総計/Totality 人種/Race 社会/Society

2 全体に関するまとめ

以上各部に分けて、具体的な語彙リストを挙げながら見てきたが、ここで全体をまとめる形で整理しておきたい。

表 1 を見ると、まず二字漢字表記語の出現比率が高いのは、上位 3 部に網掛けを施した「宗応」「政応」「年歴」各部である。前述の通り、他部では接辞等の付加で字数が増えていたり、あるいは英語自体が複合語であったりといったことが多いことによる。そうした事情から、『哲学字彙』の利用ふりが高い「宗哲」「學術」部あたりでは二字漢字表記語が少なく、「～論」「～学」「～主義」といった語構成のものが多かったために、二字以上の多字数の漢字表記語項目が多く見られるようになっていく。

『英語節用集』の二字漢字表記語がどれだけ『漢語英訳辞典』に立項されているかということになると、網掛けを施した部を上位 3 部としてあるが、網掛けの無い部においても概ね収載比率は 7 割を超えた高比率のものが殆どである。

表 1

	所収部内訳							計
	宗哲	學術	宗応	人官	政法	政応	堂処	年歴
各部所属全項目数	135	61	284	160	123	93	40	18
全体内比率	14.8%	6.7%	31.1%	17.5%	13.5%	10.2%	4.4%	2.0%
100.0%								
2 字漢字表記語数	3	8	250	65	55	72	14	10
所収部内比率	2.2%	13.1%	88.0%	40.6%	44.7%	77.4%	35.0%	55.6%
52.2%								
『漢語英訳辞典』に立項〔○〕型	2	6	193	46	41	51	10	10
359								
2 字漢字表記語内比率	66.7%	75.0%	77.2%	70.8%	74.5%	70.8%	71.4%	100.0%
75.3%								
『漢語英訳辞典』に不立項〔―〕型	1	2	57	19	14	21	4	0
118								
2 字漢字表記語内比率	83.3%	25.0%	22.8%	29.2%	25.5%	29.2%	28.6%	0.0%
24.7%								

※表中の網掛け部分は各比率中の上位 3 部（同率を含む）を示したものの。

このことは『漢語英訳辞典』が基本的に二字漢字表記語専用辞典として編集されていることから、それだけ網羅的であることを示すのであるが、逆にそうした中で不収載のもの、すなわち「―」型となっているものにむしろ目が行く。

『英語節用集』という僅か900余項目の小規模辞典において、121項に及ぶ二字漢字表記語が『漢語英訳辞典』のような本格的な二字漢字表記語専用辞典に載せられない漢字表記語を抱えるということは、『英語節用集』の独自性を強く印象づける結果となる。これは、該資料が「緒言」で述べる、纂集した「宗教哲学政党及ヒレニ関スル術語ノ一」といった語彙集団の性格を考える上で、大きな考察上の課題を今後に提供しているものと言える。

おわりに

『英語節用集』が主として『哲学字彙』から受容した學術専門語彙を収載するとともに、一方で一般的啓蒙的語彙をも併せて収載していることは、当代の対訳辞書のあり方を考える上で大変示唆的である。『和英語林集成』などの大型辞書においても、編者は双方の性格をどのようにして一つの辞書世界の中で折り合いをつけていったか、調和させていったか、今後当代の訳語研究を進めて行く上で、解決して行くべき課題はまだまだ多く取り残されたままであると言つてよい。

なおも、主要資料の周辺にあつて顧みられることの少なかった資料群に光を当てながら、この時期の日本語語彙が辿った軌跡を多角的に検証し追って行きたい。

注

- (1) 『英語節用集』の書誌・概要については、原口(1991)等を参照されたい。
 本稿において調査に使用した『英語節用集』は、大阪女子大学蔵本である。
 辞書本体部は、次のように全8部合計914項目で構成される。
- | | |
|-----------------|-------------|
| 宗教及哲学論派名称：135項目 | 學術名称：61項目 |
| 宗教家応用語：284項目 | 人品及官位：160項目 |
| 政治及法制：123項目 | 政治家応用語：93項目 |
| 堂屋及処名：40項目 | 年代及歴史：18項目 |
- 上記8部の他に、付録相当の「各国政体及宗教」が末尾に添付される。本稿に掲げる表中では各部を「宗教」「學術」「宗応」「人官」「政法」「政応」「堂処」「年歴」と適宜略称する。

英学書刊行フォームについては、屋名池 (1991) を参照されたい。

- (2) 坂本 (2006) 等を参照されたい。

本稿において『哲学字彙』、『和英語林集成』に関しては次のものを参照した。

・『哲学字彙』

第Ⅰ版：飛田良文編『哲学字彙訳語総索引』笠間書院 (1979)

第Ⅱ版：名著普及会複製本 (1980)

第Ⅲ版：大阪女子大学蔵本 及び 名著普及会複製本 (1980)

・『和英語林集成』

第Ⅰ～Ⅲ版：飛田良文・李漢燮編『ヘボン著和英語林集成初版・再版・三版対照総索引』港の人 (2000～2001)

第Ⅰ版：飛田良文・菊地悟編『和英語林集成初版訳語総索引』笠間書院 (1996)

第Ⅰ版：九州大学蔵本 及び TUTTLE 社複製本 (1983)

第Ⅱ版：九州大学蔵本

第Ⅲ版：山口豊『和英語林集成第三版訳語総索引』武蔵野書院 (1997)

第Ⅲ版：講談社学術文庫複製本 (1980)

なお、引用資料の掲出訳語引用時には適宜ローマ字をカタカナ・漢字に変換して示した場合がある。

- (3) 本稿における調査に使用した『漢語英訳辞典』は九州大学蔵本である。

J.H.ギビンスによって編集されたもので、全3巻 (本編合計1125頁) が明治22年 (1889) から明治25年 (1892) にかけて刊行されている。

『漢語英訳辞典』の漢語の性格の一端については、坂本 (1994) ・(2000) でかつて論じたことがある。

- (4) 朱 (2003) に『哲学字彙』初版における字音接尾辞に関する調査分析がある。

- (5) 編者ギビンスが第1巻序文中で、参照した書目中に「the 'Iroha Jiten' a Dictionary recently brought out by Mr. Takahashi Go-rō」を挙げている。ここでは、明治期国語辞書大系【普2】『漢英対照いろは辞典』(飛田良文ほか編 大空社刊 1997)の複製本を参照した。

- (6) 『附音挿図英和字彙』については、九州大学蔵本等を参照した。

<引用・参考文献>

- 坂本浩一 (1994)：近代漢語の一側面 —『漢語英訳辞典』に見られる二字漢語のサ変動詞用法をめぐって— (『語文研究』77号)
- 坂本浩一 (2000)：明治期対訳辞書と漢語辞書をめぐる一考察 —「漢語英訳辞典」を中心に— (『香椎潟』46号)
- 坂本浩一 (2006)：『英語節用集』をめぐって —周辺主要辞書との所収部別対照調査報告— (国語語彙史研究会編 和泉書院刊『国語語彙史の研究 二十五』所収)

朱 京偉 (2003) : 『近代日中新語の創出と交流—人文科学と自然科学の専門語を中心に』
白帝社刊

原口 裕 (1991) : 大阪女子大学附属図書館編『大阪女子大学蔵蘭学英学資料選』 第2章
「単語集・会話集」

屋名池誠 (1991) : 大阪女子大学附属図書館編『大阪女子大学蔵蘭学英学資料選』 第1章
「綴字書・運筆書・横文字紹介書」